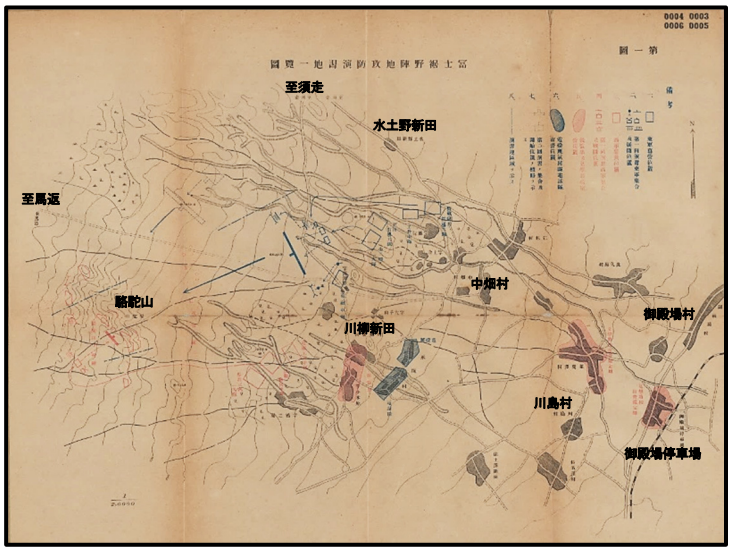

※ゴシック文字は、著者による。

「富士裾野付近陣地攻防演習記事附表　明治四十年五月」

現在の東富士演習場一帯は、かつて旧陸軍の時代に富士裾野演習場と呼ばれていました。この一帯は宮内省の御料地でしたが、同省の「御承諾ヲ経」、明治 33 年（1900）頃から演習に使用されてきました（「大正三年乙輯第二類第一冊永存書類」（登録番号：大日記-陸軍省-大日記乙輯 T3-2-14））。

明治 40 年に富士裾野演習場で実施された演習の記事である「富士裾野付近陣地攻防演習記事　明治四十年五月」（登録番号：中央-軍隊教育演習記事-152）には、この際の状況が記されています。実施された陣地攻防演習の目的は、主に戦術の研究、部隊及び工作物等に対する射撃の威力試験でした。演習は、堅固に構築した歩兵 1 個大隊基幹の陣地を、歩兵 2 個大隊基幹の部隊が攻撃する想定で行われ、砲兵及び重砲兵等が「実験射撃」として、川柳新田から駱駝山方向に射撃しました。

上掲の史料は、「富士裾野付近陣地攻防演習記事附表　明治四十年五月」（登録番号：中央-軍隊教育演習記事-153）に綴じられた演習場の概要を示している図です。現在のＪＲ御殿場駅である御殿場停車場、御殿場村、中畑村、川島村、そして演習場内には、駱駝山、馬返等が確認できます（ゴシック体太字の地名は、口絵作成者が表記しました）。この図を参照すると、中畑村付近から駱駝山に構築された防御部隊の陣地に向かって攻撃部隊が動いていたことがわかります。